

令和6年度 第1回社会教育委員会議 会議録

開催日時	令和6年5月16日 木曜日 13時30分から15時20分まで
開催場所	二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1
出席者	和田智司教育長、久保田秀実委員長、橋本由恵副委員長、石黒賢路委員、市川葉子委員、稲葉通隆委員、関口金由紀委員、三宅栄子委員
欠席者	中西美保委員
事務局	椎野教育部長、山下生涯学習課長、二見生涯学習班長、井上スポーツ推進班長、込山図書館班長、竹本副主幹、石坂副主幹
その他	傍聴者0名

1. 開会

2. 委嘱状の交付

3. あいさつ

4. 自己紹介

5. 委員長、副委員長の選出

互選により、委員長に久保田秀実委員、副委員長に橋本由恵委員を選出

6. 議 題

(1) 令和5年度 二宮町社会教育事業報告について

(委員)

ユニカールはどの程度のスペースで行うものか。ラディアンでの体験だけではなく、学校でも体験できると良い。

(事務局)

ユニカールの専用マットはラディアン展示ギャラリー程度の長さが必要になる。準備や片付けに手間がかかるため、各校に用意することは難しいが、学校でも体験できるように検討していく。

(委員)

以前体験した際、投げるストーンが少し重いと感じた。

(事務局)

小学生でも、高学年では問題ないと考えるが、低学年がプレーするには重量がある。

(委員)

放課後子ども教室での実施も検討したいが、参加者は低学年の児童が多く、その子どもたちがプレーできるかが気がりである。

(事務局)

スポーツ推進委員では、現在学校区単位でどのようなスポーツ振興事業ができるかを検討しており、子どもの頃からスポーツに親しめるよう、放課後子ども教室への参加も案として出ている。

大磯町では子ども用のユニカールのセットを所有しており、スポーツ推進委員のつながりから、借用することもできるため、低学年のプレーにも対応は可能と考えている。

今はイベントを企画しても参加者が集まりにくいと、きっかけづくりとして、人が集まっているところに出向いて体験会をしようと、ラディアンでユニカール体験を行った。参加者に話を聞いたところ、図書館に来たついでに参加したという方もおり、5歳から83歳まで80人程度の参加があった。

(委員)

ユニカール体験を旧温水プール2階のトレーニングルームで行うことはできないか。あそこであれば、用具を置いておく等の対応ができると思うが。

(事務局)

既に温水プールは廃止されており、崩落した天井も修繕したわけではないため、現状施設に立ち入ることはできない。今後の施設利用については検討している状況である。

生涯学習課としては施設に設置するというより、2セットあるユニカールの道具を通いの場等に貸し出し、そこでスポーツ推進委員に指導していただく等の活用方法を検討したい。

(委 員)

洋上研修の定員は何名か。参加者から事業についての良い評判を聞いたが、参加できなかったという話や、この事業自体を知らなかったという話も聞いている。対象者には、どういった周知をしているか。

また、話を聞くと良い事業だと思うので、対象を広げるなりできると良い。

(事務局)

定員は10名で、対象となる中学生には中学校から全校生徒にチラシを配布している。

また、議会からは町として負担している公費が大きく、参加者以外にも研修の成果を広められるよう、要望として頂いているため、事業内容の周知方法は検討していく。

(委 員)

参加人数を増やすことはできないのか。

(事務局)

洋上研修は二宮町、秦野市、大井町、松田町、中井町、清川村の1市4町1村が参加しており、参加人数が割り当てられている。秦野市が50名で他の町村は各10名である。

乗船する東海大学の研修船にも収容人数があるため、定員を増やすことは難しい。

(2) 令和6年度 二宮町社会教育事業計画について

(委 員)

基本方針についてよく出来ていると感じるが、学校や若者に軸足が寄っている印象がある。社会教育の部分でも子どもをメインとしている書きぶりがあり、学校に偏りすぎない社会教育の視点もあると良いと感じた。

(委 員)

基本方針の19ページについて、情報発信の強化とあるが、基準値及び目標値は、どのような値か。

(事務局)

町では事業の開催等について記者発表を行っており、この内メディアに記事として取り上げられた件数を基準値及び目標値として設定している。

(委員)

資料3及び資料4の令和5年度の金額は予算額ではなく、実績である決算額の方が比較しやすいと感じる。

(事務局)

決算額は9月議会で定まるため、現状は予算額でのお示しになる。

(委員)

基本方針に戻るが、15ページに記載のあるコミュニティスクールに関わっているが、現状地域で支える力は低下していると感じている。

そんな中で、コミュニティスクールを核として、地域と学校とが連携して活動することはとても良いと思うし、ここ数年でその活動も充実してきたと思う。

計画の中では目標値も掲げられているが、それを達成するために、地域学校協働活動推進員の位置づけの見直しや人員の増員、昨年度も議論した地域学校協働本部の設置など検討することがあると思う。現状、計画の見通しについてはどうなっているか。

(事務局)

コミュニティスクールは教育指導課が進めている。町で最初にコミュニティスクールが始まったのは一色小学校で、既に内容も充実していると感じている。

しかし、コロナ禍で活動が停滞したこともあり、各学校での進み具合には差がある印象である。まずは各校でコミュニティスクールを推進していくことが重要だと考えている。

(委員)

進み具合というよりは、各校で特色が出てきているのだと思う。この特色を活かしながら、町全体としてどのように進んでいくか、先を見据えていくことが重要だと思う。

各校にいる地域学校協働活動推進員は積極的に活動しており、位置づけや活動予算についても検証しながら、検討していただければと思う。

(委員)

地域学校協働本部の設置についてはどうか。

(事務局)

地域学校協働本部の重要性は理解している。しかし、昨年度より小中一貫教育をはじめたことで、コミュニティスクールの統合という話も出てきた。

どちらが先かという話にはなるが、まずは各所と共通認識を持つことから始め、次の段階に進む必要があると考えている。

(委員)

地域学校協働本部は生涯学習課、コミュニティスクールは教育指導課がそれぞれ各所と連携しながら検討していくということか。

(事務局)

その通り。どちらも地域の理解を得なければ進めていくことはできないため、一足飛びに進めることは難しい。

(委員)

検討している内容があるのであれば、そこに至る道筋も検討してもらえるとありがたい。実際、地域学校協働活動推進員も地域・学校・町それぞれにとって、どういう役割を求められているのかが漠然としたイメージでここまで来ていると感じている。

地域学校協働活動推進員と町双方で話し合い、どういった人が望ましいかなども、今後検討していってもらえると良い。

(委員)

地域学校協働活動とコミュニティスクールの関係が、文章だけではわかりにくい。イメージ図等を付けてもらえるとありがたい。

(事務局)

次回用意する。

(3) 令和6年度 二宮町社会教育委員関係事業予定について

質疑等なし

(4) 山西プールの開設期間について

質疑等なし

(5) その他

- 生涯学習センターリニューアル基本設計について（非公開）
- 緑が丘中央公園まつりについて（橋本委員より）

7. 閉 会